

# 県保協 だより

令和5年2月 第28号

■発行所 山梨県保育協議会  
甲府市北新1-2-12  
☎(055)254-8610

■発行人 山梨県保育協議会  
会長 廣瀬集一

■編集人 山梨県保育協議会  
広報・調査委員会

■印刷所 (株)三愛印刷



## 委員名簿

|                        |       |
|------------------------|-------|
| 甲府市南西保育園               | 加藤真紀子 |
| 中巨摩竜王北保育園              | 野明千絵  |
| 南アルプス市南湖保育所            | 功刀潤   |
| 山梨市・甲州市後屋敷保育園          | 中村良美  |
| 笛吹市Olive保育園            | 神宮司忍  |
| 峡南富士川町立中央保育所           | 溝口紀代美 |
| 韮崎市・北杜市北杜市立明野保育園       | 田中永子  |
| 富士吉田市・南都留郡富士河口湖町立河口保育所 | 三浦克子  |

山梨県保育協議会ではホームページに情報をアップしています。

◎県保育協議会ホームページを活用しましょう！

皆様の声を反映して作っていきたくて考えております。コロナ禍でインターネットでの情報の発信、共有、活用が進んでいます。この機会に、皆様もアクセスしてみてください。ご協力をお願いいたします。

<http://www.yamanashi-hokyou.jp/> 右の二次元コードからもアクセスできます。



## コロナ禍を乗り越えて～子育て支援の新しい時代



第62回関東ブロック保育研究大会が、東京都主催で行われました。コロナ禍のため、7月1日より31日までのオンデマンド配信による開催でした。関東

ブロックで557名、山梨県からは18名の参加でしたが、有意義だったとの回答が90%を超えました。情報発信期間を長く、分科会討議の期間を集中して行ったことが、大会を成功に導いたと思います。

令和4年6月通常国会において「こども家庭庁設置法」及び「こども家庭庁設置法の施行に伴う関係法律の整備に関する法律」が成立し、公布されました。

施行期日は、来年2023年(令和5年)4月となっています。「こども家庭庁設置法」の趣旨は、こどもが自立した個人として等しく健やかに成長することのできる社会の実現に向け、子ども及び子どものある家庭の福祉の増進及び保健の向上、その他子どもの健やかな成長及び子どものある家庭における子育てに対する支援並びに、子どもの権利利益の擁護に関する事務を行う内閣府の外局として設置することとしたものです。

こども基本法は、こども家庭庁設置法と同時の成立で、基本理念は、①全てのこどもについて、個人として尊重され・基本的人権が保障されること ②全てのこどもについて、福祉に係る権利の保障と教育を受ける機会が等しく与えられること ③全てのこどもについて、意見を表明し多様な社会的活動に参画する機会が確保されること ④全てのこどもについて、意見の尊重、最善の利益が優先されること ⑤こどもの養育は家庭を基本とすること ⑥家庭

山梨県保育協議会 会長 廣瀬 集一

や子育てに夢を持ち、子育てに伴うよろこびを実感できる社会環境の整備を謳っています。こども家庭庁が設置され基本法の成立は、コロナ禍で困惑する日本の新たな子育て政策を進め、近年の急激な少子化にも対応しようとするものです。

山梨県の保育所・認定こども園の定員充足率は令和4年4月で78.5%となっています。卒園児数に比して入園児数が激減し、途中入所は職員の不足で思うように入所できないという、負のスパイラルが起きています。山梨県では、保育士・保育所支援センターを6月に立ち上げ、潜在保育士や新任保育士の就業支援を行っています。山梨県保育協議会は希望する園に希望する時期に入所できるこの仕組みに全面的に協力し、施設の体制を整えていく応援をしていきたいと思います。永年勤続の職員の皆様には、会長、知事、全国、叙勲といった表彰制度を整えて感謝の意を表したり、処遇改善のための認定研修を実施・充実させていくなど、保育・幼児教育に関わる皆様の応援を充実させています。さらに、山梨県へは「意見・要望書」を提出し、配置の改善、処遇改善、障害児保育をはじめとする特別保育事業の充実、子育て支援事業のさらなる展開などを求めています。県保協ホームページでは大切な情報や研修案内などを掲載し充実にも努めています。いつ終息するかわからないコロナ禍ですが、スクラム組んで前進するしかありません。

## 保育所等における安全対策について

山梨県子育て支援局子育て政策課 課長 細田 尚子

山梨県保育協議会の皆様には、日頃より、本県の保育環境の向上に御尽力をいただいております。心から感謝申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中、感染防止対策を徹底しながら保育を継続していただいていることに重ねて感謝申し上げます。

さて、昨年9月に静岡県認定こども園において、園児が送迎バスに取り残され、死亡するという大変痛ましい事件が発生しました。

同様の事件は一昨年の7月にも福岡県で発生しており、幼い命を奪う事件を2度と起こさないよう、全国的に安全対策の徹底を行っているところです。

県でも保育現場の皆様のご協力のもと、昨年9月に送迎バスの安全管理に関する緊急点検を実施し、11月から12月にかけて送迎バスを運行している全ての施設に対し実地調査を行いました。

調査では、運転手以外の職員の同乗や、担任への降車時の引き継ぎ、連絡無く登園していない子どもの保護者への確認など、基本的な安全管理は概ね実施されていることが分かりましたが、送迎バスに関するマニュアルの策定率は低い状況でした。

これらの調査などを踏まえ、国は、誰が運転・乗車するかにかかわらず、バスの乗車・降車時に幼児

等の所在の確認が確実に行われるようにするため、府省令等を改正し、本年4月から、幼児等の所在確認と安全装置の装備の義務付けが施行されます。

県では、安全管理マニュアルの整備や義務化される安全装置導入への助言・情報提供を行って参りますので、送迎バスを運行している施設におかれては、適切な対応をお願いいたします。

また、送迎バスに関する改正以外でも、「児童の安全の確保」のため、今まで幼稚園や認定こども園に義務付けられていた安全計画の策定について保育所にも策定が義務付けられ、業務継続計画を策定・周知し必要な研修及び訓練を定期的を実施することや、感染症及び食中毒の予防及びまん延防止のための研修・訓練を実施することが、努力義務として規定されます。

人材不足と業務多忙な状況に置かれている保育現場に対し、今まで以上の業務負担を求めることとなりますが、全ては子どもの命を守るための施策であるため、御理解と御協力をお願いいたします。

なお、昨年6月に開所したやまなし保育士・保育所支援センターでは、保育人材バンクによる保育士の斡旋や、保育士の業務負担軽減につながる働き方改革の支援を行っていますので、是非御活用ください。

## 令和4年度 保育部会の取り組み

山梨県保育協議会保育部会長 高橋 恭子



令和4年度の保育部会が定期総会を経て、スタートしました。まだまだ参集開催が心配される中でしたが、6月2日初顔合わせを行いました。ディスタンスを保ちつつも、言葉を交わし始めると、各ブロックの状況・課題などを伺うことができました。本来ならば頻りに部会の開催を行い、交流を持つべきところですが、思うようにはならず…。

事務局の配慮もあり、せっかく縁あって、役員と

いう任を引き受けた以上、たくさんの学びに触れてほしいと思い、また県保育部会長として得た学びを共有するべく、連絡を密にしました。「委員ニュース」を各園にメール配信し、タイムリーに全国の保育に関する話題や会議の内容など、さまざまな情報を発信し、共有しました。各種の研修会にも参加を促し、研修内容のポイントを伝えたりしました。

また今年度は全国保育士会の常任委員としての活動もありました。全国各地の先生方とお会いし、保育について語り合う中で、思いを共有したり、学びを受けたりととても貴重な経験ができました。後半

からは参集での会議。オンラインのメリットももちろんありますが、たわいもない会話の中にも人のぬくもり、言葉のやり取りなど、思いを重ねた方々と場を一緒にすることの意義を痛感した1年でした。

これからも保育部会の活動がますます充実し、県内の保育の質の向上に寄与出来る部会であることを願っています。

## ● 2022年度活動報告について

### 保育検討委員会

葦崎東保育園 園長 猪 又 しげ美



令和4年度第1回保育検討委員会は、新型コロナウイルス感染症の影響をうけ、7月14日に実施し、その後の検討会も、感染防止対策を徹底し開催となりました。

現在、各ブロックの保育組織から保育施策に対する意見・要望が集まり、県や市町村へ提言するため、準備を進めています。内容は、以下の通りです。

今年度各保育園から①保育士配置基準の見直し②保育士の人材確保及び職員の処遇改善③物価高騰による緊急対策④業務改善（事務の簡素化及びICT化）⑤その他の意見が出されました。①「保育士配置基準の見直し」は、今、国の配置基準で保育を行っていますが、配慮の必要な園児への支援、虐待や家庭環境などの保護者への支援等、園児一人一人に寄り添った保育の実践が厳しい状況との切実な訴えが多く聞かれました。配慮を要する子への保育に、保育士以外の専門職の配置、増加するアレルギー児に対応する調理員の加算配置、看護師設置をし、行き届いた保育を実現すること。②「保育士の人材確保及び職員の処遇改善」は、今年6月に新たな希望の光である「やまなし保育士・保育所支援センター」が運用を開始し、意見・要望が形となりました。さらなる取り組みとして、新卒の保育士と潜在保育士の雇用につなげる賃金・処遇改善と働きやすい環境整備等の施策を推し進めること。③「物価高騰に

よる緊急対策」今年度はコロナ禍とウクライナ情勢等における原油価格・物価高騰をめぐり、保育園の給食費および光熱水費以外の諸経費にも影響が生じひっ迫した運営となっています。「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時特別金」増額及び財源の確保は、子育て世帯への支援であり、園児の安定した食の提供をするためにも、早急に対策を講じていくこと。④「業務改善（事務の簡素化及びICT化）」は、申請書類等の簡素化・統一による事務負担の軽減が図られたり、県による「事務の手引き」の改訂版の再発行を希望し、業務改善に取り組む。さらに交付金の活用をめぐる自治体間の取り組みの格差があるため、こうした状況が生じないよう県主導の働きかけを求めること。ICTの導入による保育全体の効率化を推進、システム整備を進める補助金と維持費の必要な環境整備。オンラインを活用し研修や説明会の積極的な導入すること。⑤その他の意見・要望では、おむつの処理費や郡内地域の発達支援施設設置などが挙げられました。

コロナ禍で少子化も急速に進む中、現場から共通した意見・要望が多く寄せられました。保育検討会では、子どもたちの権利と育ちを保障していくためにも、保育の受け皿の整備と保育の質の確保、向上を進め、保育現場で働く保育士が、やりがいを実感できる職場づくりを目指すべく、私たちの切なる声を、県へ挙げていきたいと思っております。

## ● 令和4年度研修委員会について

八代保育園 園長 水口 昭 玄

本年度第1回研修委員会は7月14日の開催となりました。新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中での研修会の開催を考えるとということで話し合い、時期としては12月以降、研修形式はオンラインで行うというかたちで年間計画を立てました。また、次回委員会までに研修内容と講師を各自検討し持ち寄るということで終了しました。

第2回の委員会は予定通り8月1日の開催となりました。前述の協議を基に色々な候補が挙がったが、委員会で協議し下記のテーマと講師で依頼することとした。

園長研修

「保育現場における実践的なアンガーマネジメント」

講師 アンガーマネジメント協会 小尻美奈氏

主任研修

「保育園・認定こども園におけるヒヤリハットとその活用」

講師 山梨大学附属幼稚園 副園長

荻原 ひろみ氏

園長研修としては、先ず管理者となる立場の者が自身の感情をコントロールし、それを現場保育士の教育にもつなげるよう、主任研修には重大事故の防止へとつながるヒヤリハットの更なる活用を求め両氏へと決まった。また開催1月中旬を予定している。

現場で学ぶことは多くあるが、研修会を通し更なる保育資質の向上へつながるよう期待し、楽しみにしております。

## ● 今年度の活動について

保育内容研究・給食研究合同委員会 甲州市立奥野田保育所 主任保育士 前 嶋 健 一



関東ブロック保育研究大会のテーマが『家庭や地域との連携による食育の推進』と決まった事から今年度は保育内容研究委員会・給食研究委員会が合同で

委員会を立ち上げる運びとなりました。

さて、研究の方は、昨年度の保育内容研究委員会が取り上げた「食事面で支援等を必要とする子どもや保護者への働きかけに向けての調査」の調査結果から、子どもの食に関する困りごととして「姿勢」をあげた保護者が比較的多く、そのことを保育所に相談している保護者の割合が少ない状況が分かりました。一方で保育士からみた子どもの食に関する困りごととしても「姿勢」は上位としてあげられていました。そこで、子どもが食べる事を楽しみ、食事

を楽しみ合う事ができるよう、喫食時に望ましい「姿勢」に焦点をあて、研究する事としました。

具体的な方法としては、各委員が各保育所にて姿勢に関する実態調査並びに考察・アンケートを行いました。これを基に、すでに保育所で取り組んでいる事、これから取り組もうとしている事を抽出し、保護者に具体的な取り組みとしてその方法を伝える事としました。そして保育所と家庭が同時期かつ一緒に子どもの姿勢について良い方向へ向かえるよう取り組み始め、共に喜び合ったり悩んだり、共感したりすることができるようにしました。

最後に、この研究が子どもにとって最善の利益につながり、家庭と保育所のより良い連携の一端となればと思っています。

## ●「できるぞ！ やれるぞ！ やったるぞ！」

甲斐市立竜王北保育園 園長 野明千絵

思っていた以上に制限のある生活が長くなってしまいました。大人も子どもも今まで通りの生活ができない日々が続きました。

保育も、まだまだ不安なこともあります。出来る事を見つけていこうと、皆さん工夫しながら進んでいることと思います。

そんな中私は、今年の卒園式に、北京オリンピックで活躍した女子アイスホッケーチーム「スマイルジャパン」の合言葉を子どもたちに贈りました。

「できるぞ！ やれるぞ！ やったるぞ！」という言葉です。チームの快進撃を思わせる潔い言葉です。前向きな気持ちが強く伝わってきます。

気持ちが少しマイナスに向いてしまった時代、子どもたちにも主体的に考え、あきらめずやってみようというたくましさを育んでいきたいと思います。

そのために私たちは、子どもが思い思いに遊べる環境を作り、その思いを引き出し受け止める保育士がいて、安心して過ごせる大きな器としての保育園にしていかなければと思っています。

そしてこの言葉は、保育士にもぜひ持ってほしい心意気でもあります。

「できるぞ！ やれるぞ！ やったるぞ！」の気持ちで頑張っていきたいですね。

## ● With コロナにおけるこれからの保育を考える

白根保育所 所長 松下久美



紙製のマスクを繰り返し洗濯して使い、手作りマスクで凌いだ日々は懐かしくなりましたが、毎日身につけるものとなって3年目となりました。

保育所もマスクでの保育となり、大好きな先生の表情や、言葉を覚える時期の口元を見せられないことが、子どもの育ちに影響しないか、マスク越しの対話で大切な何かが伝わるだろうかとたくさんの心配がありました。

マスク保育士は当たり前になりました。1日がかりの運動会や、ホールに入りきれないお客さんのいる発表会は、どちらもほのぼのとした規模で距離を保った催しにと変わりました。

保育者は感染の不安を抱えながら、マスクの下のニコニコの笑顔で子どもと向き合っています。顔半分だけしか見えていなくても、大好きな保育士の傍には、自然と子どもたちが集まり、子犬のように密になりじゃれあう姿は、コロナ前と何ら変わらぬ姿です。また保育者とのあたたかなやり取り、その一つがあっただけで「今日は楽しかった」と言ってもらえる喜び、それらの変わらないものがあります。子どもたちの豊かな育ちと、保護者の幸せに生きる権利を保障するために、私たちが何をすることが最善なのか、その時代その時代に役割があることを感じます。どんな状況下でも常に保育は温かいものであるように、それは変わらず、これからも子どもの傍にあつたらと考えます。

## ● With コロナとこれからの保育

山梨市立後屋敷保育園 主任保育士 日野原 志 保



コロナウイルス感染症が流行して3年。誰もがここまで長く流行するとは予想できず、今までの日常はガラリと変わってしまい、手指の消毒、マスク着用、定期的な換気などが当たり前の

生活となりました。

今までとは異なる生活のなかでも子どもたちが「熱を測って」「消毒は？」などと自分たちで声を掛け合って感染予防に努めている姿を見ると改めてその適応能力の高さに驚かされました。

園での行事も大きく変わり、遠足は密になるバスでの移動を避け、園内での遠足ごっこという形に変更せざるを得なくなりました。そのため、園庭いっばいにサーキットを作り三輪車でレースをしたり、

各部屋に作った縁日風のゲームコーナーを楽しんだり「遠足に行けなかった」ではなく「遠足ごっこが楽しかった」と感じられるように工夫しました。子どもたちが「楽しかった！」と笑顔で話しているのを見て、感染対策をしながらも心から楽しめる保育ができたと実感できました。

また、運動会では時間を短縮したものの、子どもたちメインのより達成感が味わえるプログラムに変更して、コロナ禍でも保護者に我が子の成長を感じてもらえるような工夫をしました。

コロナ禍での保育にはこれまでと異なる苦労がありますが、工夫次第で今までとは違った楽しみ方が出来ることをこの3年間で学びました。これからもアイデアを出し合い、子どもたちの健やかな成長のために日々保育していきたいと思えます。

## ● 保育新時代の幕開け

OLive 保育園 園長 神宮司 忍



新型コロナウイルスが日常の一部となり、今年度においては全国各地のイベントなども2～3年ぶりの開催として普通に行われるようになり、保育現場においてもほとんどの行事を中止

ではなく、規模や内容を変えながら開催しました。これは新しい時代が始まった元年とも言えるのではないのでしょうか。

コロナ対策をしながらの行事の再開を考えることは、多くの園でこれまでの行事の在り方を見直す機会になりました。近年、保育の改革は飛躍的に進み、子ども・子育て支援新制度が制定され地域型保育や企業主導型保育など、新しい保育事業も創設され、保育の制度や環境は大きく変わりました。また、保育所保育指針が改定されたことは最も大きな変化を

感じたことでしょう。

しかし日々の保育が変わる中、園行事は昔からの慣例的な内容で変わらないまま、園の1年間も行事に主軸を置いたスケジュールで組み立てられ、保護者の多くが参観を楽しみにしていることもあり園としても手を入れづらい領域でしたが、コロナ対応を機に根本的な行事の在り方、行事の是非、内容を考えるきっかけとなったことで、保育の新時代が一機に幕開けを迎えたように感じました。

制度は当然守るべきものでありながら、今後の保育の理想や未来像を描いたものでもあります。しかし“何かのきっかけ”が無いと、なかなか踏み込めない部分もあります。今こそが改めて保育を見直す良い機会と捉え、保育の未来につながることを願います。

## ● With コロナにおける これからの保育を考える

富士川町立第5保育所 所長 井上 枝里



新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、これまでの保育の見直しが迫られました。私たち保育現場では、この状況の中、子ども達がこれまで通り楽しく保育所で生活し、保護者が安心して

保育所に預けるには、どのように保育を継続していけばよいのか非常に戸惑いました。未知の感染症に過敏に反応し、手洗い、手指の消毒、マスク着用、施設の消毒は当たり前。あらゆる行事の中止など、これまでの保育が“がらり”と変わりました。行事をしない保育、そこにも大変違和感があり罪悪感さえ覚えました。しかし、これまで行ってきた当たり前の保育を根本から見直す良い機会と捉え、子ども達がさまざまな遊びや活動に主体的にかかわり、毎

日楽しく過ごせる保育をしていくことが大切であると考えようになりました。行事の見直しや短縮により、行事の準備や保育士の精神的負担が軽減され、子どもと向き合う時間を十分に確保することができました。また、子どもの気持ちに寄り添う保育が今まで以上に可能となり、登所、降所の際の時間を活用し、保護者に対して、子どもの様子を詳しく伝えることができるようになりました。

With コロナにおけるこれからの保育。子どもの自己肯定感を育み、子ども、保護者に寄り添い対話をする事、更には保育所の情報を配信し、保育所の様子をこれまで以上に伝えていくことが重要だと考えます。これからも子どもひとり一人の主体性を尊重し、きめ細やかな保育を行っていききたいと思います。

## ● プラス転換思考のススメ

船津保育所 保育士 渡辺 香苗



新型コロナウイルスが流行して早3年。私達の生活様式もすっかり様変わりし、日常生活だけでなく園生活の中でも今までの様な生活・行事には制限が入る様になりました。今まではコロ

ナをどう蔓延させないかという事に焦点が向いていましたが、現在は「with コロナ」として、感染対策を適切に行いつつ社会活動もしっかり進めていく流れに変化しています。

それでは園としてどう「with コロナ」を進めていけば良いのか、色々な先生方とお話する中、私なりの考えをまとめてみました。

1つ目は「コロナを怖がらず、やっていける行事は行っていく」です。ガイドラインに沿って感染対策をしっかりとし、各ご家庭にも協力を求めれば安

全に行事を行っていける事が分かったので、今後も対策を講じつつ子ども達に楽しい経験の場を作っていきたいです。

2つ目は「今までの形にとらわれず、より良いやり方を模索していく」です。家庭の形や働き方が変わっていく中で、コロナ禍は保育や行事のやり方、内容等を見直したり変更したりしていく良いきっかけにもなったのかもしれませんが。コロナや時代の状況を見ながら、その時1番ベストな保育を子ども達や保護者の方に提供していけたらと思います。

これから第8波が来るのではないかと懸念されていますが、早くコロナが終息することを願いつつ、頼れる先生と意見を出し合いながら、マイナス面ばかりにとらわれずにプラス転換しながら日々の保育を行っていきます。



## ● 第62回（令和4年）関東ブロック保育研究大会を終えて

甲南立正保育園 園長 齋藤正善

コロナ禍での開催となった保育研究大会はオンライン形式で行われた。研究発表を事前に動画配信し、視聴後に質問を受け付けた後、分科会討議を行うという形であった。甲府ブロックは、甲府市保育連合会の執行部が研究を行う方法を取り、令和元年度の執行部と、令和3年度からの執行部が力を合わせて研究を進めてきた。

今だからこそ定着しているオンラインでの会議や研修であるが、研究をとりまとめはじめた当時は、オンライン会議はまだ主流ではなく、研究委員が全員ネット上に集まり、協議するという事はなかなか難しかった。また、コロナ禍で頻りに集まる事も難しく、はたして研究がまとめられるのかという不安が常に付きまとっていた。異例の事態にあった中で研究方法であるが、個々にカテゴリーに分けて情

報の収集をした後、対面会議を開催し、意見をまとめるという作業を何度も繰り返し行ってきた。

私たちは「子どものより良い育ちに向けた関係機関とのネットワーク」というという題名で、山梨県内や「こども最優先のまち甲府市」において、子どもに関わる関係機関がどのように存在し、どうやって子ども達に活用されているのかを調査した。さらに甲府市の各園に2度のアンケート調査を行い、園での支援実態や事例を集め、実際に支援を行った子ども達が、各機関を利用した際の流れを目に見える形で作成した。

発表を終えて思う事は、子どもの生活を支える保育機関がいかに重要な役割を担っているかを痛感する。研究が少しでも誰かの役に立つ研究になってくれると嬉しい。

## ● 関東ブロック保育研究大会に参加して

南アルプス市立八田保育所 主任保育士 村松美穂

令和4年7月20日に第62回関東ブロック保育研究大会が今年度はオンデマンド配信で行われました。令和3年度は第二分科会〔配慮を必要とする子どもや家庭への支援に向けて〕のテーマをもとに、サブテーマとして～食事面で支援を必要とする子どもや保護者への働きかけに向けての調査～を掲げ、研究を進めてきました。

コロナ禍の中、思うように集まることができないうえに研究期間がとても短く、どんな研究を進めていけばよいのか非常に悩みました。結果、研究委員の先生達が一番気になる食事の場面を捉え、家庭と保育所での困り事の違の実態を把握し、家庭と保育所が連携していくためにはどうしたらよいかを知る為に保護者と保育士の両者からアンケートを取りました。

食事の面での困り事には5項目が挙げられ、年齢ごとに比較、理由を調査し、その中でどのように家庭と保育所との連携につなげられるか専門家から沢山の助言を頂き、やっと今回の発表につながりました。

発表終了後はグループワークが行われ、大勢の方々とはPCの画面を通してでしたが意見交換ができました。

今回の結果を基にそれぞれの保育所内で共有し、保護者にアドバイスをしたり、子ども達にこんな場面ではどんな支援をしていったら良いのか等の理解を深めて保護者支援につなげています。

今回の発表に至るまでに関わった全ての方々にご場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

## ● 全国保育協議会会長表彰を受賞して

若草保育所所長 東 條 美 奈

この度は、栄誉ある全国保育協議会会長表彰を頂下心より感謝申し上げます。また、40年余り保育士として歩んでこられた事は、私をとりまく多くの人達の支えや励ましがあったからこそだと思い感謝いたします。

私が保育士になりたいと考え始めたのは、高校2年生の時でした。単純に、子どもが好きだからという思いでした。そして、短大に進み、資格を取得、卒業、現場に就職。長いようで、あっという間の年月でした。

保育士と言う仕事を通して、たくさん子どもとその笑顔に出会いました。たくさんの保護者、仲間達にも出会えました。人と人との関わりがあってこそ保育士。私は、「保育士」と言う仕事が好きです。

子どもは、自ら伸びていく無限の可能性を持っています。保育士は、保育を通して子どもの可能性を引き出す援助をし、生きる力を育てていきます。大変な仕事ではありますが、子どもの笑顔に出会えた時は、この仕事の素晴らしさを感じます。

新型コロナウイルスによって保育の現場が大きく変わってしまいましたが、保育所は常に、全ての子ども達が健やかに成長できる場所であればならないと願っています。

最後に、受賞にあたりまして、山梨県の代表としてご推薦いただきましたことに、保育協議会廣瀬会長はじめ皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

## ● 令和4年度 広報・調査委員会

(福) 南西保育会 南西保育園 加 藤 真 紀 子

保育所等における新型コロナウイルスへの対応について、令和2年1月に厚生労働省より最初の通達が出されてから、早3年が経った。その間、3回の緊急事態宣言の発令を経て、令和4年2月にはオミクロン株が流行の主体となり保育所の休園数が急増し、同年9月には第7波のBA.5系統への置き換わりからWith コロナの新たな段階への移行を見据えた政府の基本的対処方針の変更と、保育所等はその都度通達に従って未知のウイルスへの対応を行い、子どもが健やかに育つ保育の現場を守ってきた。しかし、たかが3年、されど3年。今の子ども達にとっては、コロナ対策下での保育が「日常」となっている。医療機関や介護施設などと同様に、設備備品の消毒等の衛生管理対策や、感染拡大を防ぐ子どもへの対応、コミュニケー

ション不足から希薄になりがちな保護者との連携など、コロナ禍によって大きな影響を受けた業界の一つと言われている。

令和4年7月と8月に開かれた広報調査委員会にて、今回の『県保協だより』ではそうした保育所等がおかれている厳しい現状を踏まえつつ、コロナ禍だけでなく保育をとりまく様々な現状から執筆者の方々が日々感じている「“Well being” 一より良い未来に向けた保育」について、忌憚なく提言や意見などを語って頂くようテーマを設定した。執筆された先生方の声が、少しでも同じく現場で奮闘を続けている保育者皆様の励みや希望に繋がれば幸いです。

最後に、発行にあたり関係者の皆様にはご多忙の中ご協力を頂き、心より感謝申し上げます。

### 編集後記

今年度も新型コロナウイルス感染症予防に十分注意しながらの保育となりました。しかし3年目になり今まで同様の感染症対策を行いながらではありますが、行事のあり方など保育現場においても工夫し、新たな保育のあり方を考えながら前に進んでいます。感染症を通して保育の本質や大切さを改めて考える機会となりました。

今号は「これからの保育について」子ども達や

保育者が明るい未来に向けて前進していくことができますようにとの願いが込められています。ぜひご覧ください。

広報誌につきましては寄稿していただきました会員様方、委員の皆様のご多大なるご理解とご協力により発刊することができました。厚くお礼申し上げます。一年間ありがとうございました。

(北杜市立明野保育園園長 田中 永子)